

ラグビー讃歌



株式会社 松本コンサルタント
宮住 勝彦 MIYAZUMI KATSUHIKO
建設部門

ラグビー観戦が大好きである。

2019年にラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表のさくらジャパンが大活躍したことでラグビーファンになった方もいると思うが、私はそれよりずっと以前からの「筋金入り」のファンである。

ラグビーはイギリス発祥の競技で、サッカー同様にワールドカップではイギリスだけは各地域(イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド)ごとに参加が認められている。

2023年のラグビーワールドカップはフランスで開催されることになっており、これから予選も始まるので今から楽しみである。

以下にラグビーというスポーツの概略を紹介する。

○競技人数・役割

ラグビーは1チーム15人で戦う。プレーヤーの役割は、大きく分けてフォワード(8人)・ハーフバック(2人)・バックス(5人)に分かれる。

フォワードはスクラムを組んだり相手ボールを奪いに行くのが主な役割で、左右のプロップ・フッカー・左右のロック・左右のフランカー・ナンバー8に分かれる。おおむね体重が重く体格の良いメンバーが選ばれる。

ハーフバックはスクラムハーフとスタンドオフからなる。スクラムハーフは密集状態からボールを出したり、スクラムにボールを入れたりするプレーヤーで比較的小柄で敏捷性のあるメンバーが選ばれる。スタンドオフは「司令塔」とも呼ばれ、試合の流れを読んでゲームを組み立てる役割を担いキック力が要求される。(現在の日本代表チームでは横浜キャノンイーグルスの田村優選手や埼玉パナソニックワイルドナイツの松田力也選手等)

バックスはフォワードから出たボールを展開してトライにつなげる役割があり、フォワードに比較して走力やステップワークに優れたメンバーが選ばれる。左右のセンター・左右のウイング・フルバックに分かれる。

○ルール等

ラグビーのルールは結構複雑であるが、「立ってプレーする」、「ボールの後ろでプレーする」、「前にパスしてはいけない」の 3 点を押さえておけば十分に楽しめる。テレビ中継では副音声でわかりやすいルール解説を実施している。

主なルール、用語は以下の通りである。

ノックオン：ボールを前に落とす。(相手側ボールのスクラム)

スローフォワード：ボールを前にパスする。(相手側ボールのスクラム)

ノットストレート：ラインアウトでボールがまっすぐに入らない

(相手側ボールのスクラム)

ノットリリース・ザボール：タックルされたプレーヤーがボールを離さない

(相手側ボールのペナルティーキック)

オフサイド：ボールまたはボールを持った味方の前でプレーする。

(相手側ボールのペナルティーキック)

モール：ボールを持ったプレーヤーを含む 3 人以上のプレーヤーがバインドした状態。

ラック：タックル等によりボールが地面にある状態。この場合、ボールを獲得するには足をつかわなければならない。

アドバンテージ：守備側が反則を犯しても、攻撃側が有利な状況であるとレフリーが判断すれば、反則を取らずアドバンテージを宣言してプレーを継続する。反則を取ることより攻撃側が有利な状況であると判断されるとアドバンテージオーバーとなる。

危険なプレー：首から上へのタックル、ラフプレー等

(相手側ボールのペナルティーキック)

悪質な場合はシンビン（イエローカード：10 分間の退場）やレッドカード（一発退場）となる。

ラグビーは相手との接触が避けられない競技なので、スポーツマンシップに反する行為は厳しく罰せられる。

得点は、トライ（相手側ゴールラインを越えてボールを持ち込む）5 点、コンバージョンゴール（トライ後のキック）2 点、ペナルティーキック 3 点、ドロップゴール（一旦弾ませたボールを相手方ゴールにキックする）3 点である。

○ラグビーの魅力

ラグビーの魅力は何といってもタックルとそれに伴うボールの奪い合い（接点）である。バックスが華麗なステップで相手を抜き去っていく姿にも魅力を感じる。しかし、その原点にあるのは「ALL FOR ONE ONE FOR ALL」（すべては1人のために、1人はすべてのために）という考え方である。

トライするチャンスは走力のあるバックスが多いが、その陰には相手にタックルし体を張ってボールを奪いに行くフォワードの地道な努力がある。

これはラグビーのみならず、会社生活や社会全体にも通じる精神であると思う。

試合が終わるとレフリーが「ノーサイド」のホイッスルを吹く。選手たちはグラウンド中央に整列し、お互いをリスペクトし、健闘を讃え合う。非常に爽やかな情景である。

これから来年3月にかけてはラグビーシーズンである。

関東大学ラグビーはこれから12月にかけて対抗戦グループ・リーグ戦グループに分かれて対戦があり、大学選手権も来年1月にかけて開催される。

全国高校ラグビーも12月に大阪花園ラグビー場にて開幕するし、ジャパンラグビーリーグワン（トップリーグを再編）も来年1月に開幕する。

今から数か月は1年の中で私の至福のシーズンなのである。